郡市医師会だより

平成22年度

北見医師会医政講演会

北見医師会理事　大　内　博　文

平成22年11月19日(金)午後７時から北見医師会講堂で、講師にノンフィクション作家の辰濃哲郎(たつのてつろう)氏をお招きして、平成22年度北見医師会医政講演会が開催されました。

辰濃氏は、－平成22年９月29日に初版が発行された著書「歪んだ権威　密着ルポ　日本医師会　積怨と権力闘争の舞台裏」の著者紹介によりますと－慶応義塾大学法学部政治学科卒業後、81年に朝日新聞社に入社。高松、阪神支局、大阪本社社会部を経て、89年から東京本社社会部。厚生省(当時)を約４年間担当し、遊軍キャップ、デスクなどを経験した後は、再び医療問題に携わり、04年に退社後は新型インフルエンザなど医療問題のほか、メディア論や高校野球取材も手がけていると紹介されている方です。

当日は医師会員37名が参加し、「ジャーナリストから見た日本医師会選挙」という演題で講演していただきました。これまでに「月刊現代」「AERA」「医薬経済」に執筆した記事などをもとに書かれた著書「歪んだ権威　密着ルポ　日本医師会　積怨と権力闘争の舞台裏」の内容についてや、その取材の裏話、本に書けなかったことなどを話していただきました。

辰濃氏は日本医師会館の中に立ち入ることを許されていないそうで、冒頭に「敵陣に乗り込んできたようで、何を言われるか緊張しています」と言っておられました。確かに著書の内容は医師会の内部を書いたものであり、われわれの反感を買っているだろうと考えていたようです。

しかし、４年間にわたる地道な取材や、積み上げると10mになろうかという膨大な資料から書かれた著書の内容は悪意に満ちたものではなく、むしろわれわれに大きな期待をしているからこそに思える部分も多々みられます。そして、今後の日本医師会に期待することとして、「たとえ開業医が不利益を被っても、国民のためには自らの血を流す覚悟を決めることだろう。そのとき初めて、国民は日医の存在を頼もしく思うはずである。政治家とのパイプよりも国民とのパイプを築き、国民を味方につけて是々非々で政府と向かい合う。そうすれば、政権与党も政治家も、日医の意見を聞かざるを得なくなるだろう。国民をバックにした普遍性のある主張を日医が続けていれば、政権与党が変わるたびに政党とのパイプを変える必要もなくなるだろう」と言っておられました。今後の医政活動に、大変参考になる講演会だったように思えます。

講演会終了後に懇親会が開かれ、医師会理事18名が参加し、遅くまでさらに楽しい話を伺うことができました。

辰濃氏にはご多忙の中、遠く北見市まで来てご講演いただき、感謝いたしております。

講師の辰濃哲郎氏

会場の様子